

はじめての6年、 あしたへの手紙



佐々木陽

はじめの6年、あしたへの手紙

佐々木陽

入学のお祝いに

おかあさん・おとうさん・おばあちゃん・おじいちゃんより

この本は、自分史サービスの見本として作った架空サンプルです。登場する人物、地名、出来事はすべて架空で、実在の人物・団体・場所とは関係ありません。

もくじ

第1章 きみがきた日

第2章 0～1さい わらった日、あるいた日

第3章 2～3さい ながぐつのぼうけん

第4章 4～5さい えんと ミニトマト

第5章 すきなもの きょうりゅうと こうさく

第6章 小学校へ 入学のしたく

第7章 みらいの きみへ 4つの てがみ

第1章 きみがきた日

雨のあとのそら

はるが うまれたのは、4月の あさでした。

その日は、よるの あいだずっと 雨がふっていました。あさになると、雨があがって、そらがとても きれいになりました。まどの そとの はっぱに、水の つぶが ひかっていました。

おかあさんは、うまれた ばかりの はるを だっこして、そらを見ました。お日さまの ひかりのような 子になりますように。そう ねがって、おとうさんと ふたりで きめた 名まえが、「はる」です。

はじめて はるを だっこした おとうさんは、なかなか ことばが 出ませんでした。小さな 手が、おとうさんの ゆびを ぎゅっと にぎったからです。「小さいのに、力が つよいね」と、おとうさんは わらいました。

その日の ゆうがた、おじいちゃんとおばあちゃんが あいに きました。おばあちゃんは、はるの 足の うらを そっと さわって、「やわらかいねえ」と いいました。おじいちゃんは、しゃしんを たくさん とりました。たくさん とりすぎて、どれも おなじような しゃしんでした。

はるが うちに きた 日、げんかんには 小さな くつしたが ならんで いました。おばあちゃんが あんだ、白い くつしたです。足が 小さす

ぎて、くつしたの 中で足が あそんで いました。

よるになると、はるは1じかんおきに 目を さましました。そのたびに、おかあさんとおとうさんが こうたいで だっこしました。ねむいけれど、うれしい よるでした。おとうさんは、はるがねている か おを見ながら、「ずっと 見て いられるね」と いいました。

はるのはじめての ふくは、おかあさんが えらんだ、きいろい ふく でした。そでがながくて、手が見え ません。おかあさんは、そでを2 かい おって、小さな 手を出して あげました。はるは、その 手を、ぐう、ぱあ、と うごかしました。

はるが うまれて1か月が たった ころ、おばあちゃんは 小さな ノート を1さつ かいました。はるが その 日 したことを、1ぎょうずつ かいていく ノートです。この 本のおはなしの 中にも、その ノート から ひろった ことが たくさん あります。

はるの うちには、その 日の シャしんが いまも かざって あります。はるは 小さくて、目をつぶって います。となりで、おかあさんとおとうさんが わらって います。

はるの 名まえを きいた おじいちゃんは、「いい 名まえだ。はるの 日の、はるだね」と いいました。おかあさんが「お日さまの ほうの はるです」と いうと、おじいちゃんは「どっちも あったかいから、 いいんだよ」と わらいました。

この 本は、はるが うまれてから、小学校に 入るまでの 6年の おはなしです。はるが どんな ことをして、どんな ものが すきになったのか。おかあさんとおとうさん、おじいちゃんとおばあちゃんが、おぼえている ことを あつめました。

さいごには、大きくなったはるへのてがみもあります。いつかまた、この本をひらいてくれたらうれしいです。

第2章 0～1さい

わらった日、あるいた日

うまれたばかりのはるは、よくねて、よくなきました。おなかがすくと、大きなこえでなきます。おかあさんがだっこすると、すぐにしずかになりました。

はるがはじめてわらったのは、なつのはじめのことです。おとうさんが、はるのかおのまえて「いないいないばあ」をしました。するとはるが、「ふふっ」とこえを出してわらったのです。

「いま、わらった！」

おとうさんはうれしくて、なんども「いないいないばあ」をしました。でも、はるはもうわらいませんでした。ねむくなっていたのです。

なつのおわりになると、はるはねがえりをするようになりしました。ころんとうつぶせになって、かおを上げて、まわりをきょろきょろ見ます。おかあさんがせんたくものをたたんでいると、くつしたに手をのびしました。はるは、くつしたが大きすぎたのです。

はるのすきなものの1ばんめは、おかあさんのうたでした。ねるまえに、おかあさんが小さなこえでうたうと、はるは目をとろんとさせて、すぐにねむってしまいました。おとうさんがうたうと、なぜか目をあけて、じっとおとうさんのかおを見ていました。

あきには、はじめての おかゆを たべました。ほんの ひとさじです。はるは、くちをもぐもぐさせて、ふしぎそうなかおをしました。おばあちゃんが「おいしいね」というと、はるはもう ひとくち、くちをあけました。

ふゆの あいだ、はるは よく はいはいをしました。はやくて、ちょっと 目をはなすと、もう となりの へやにいます。おとうさんは、はるをおいかけて、よつんばいで うちの中を まわりました。はるは、おいかけられるのが 大すきで、「きゃっ、きゃっ」と こえを 上げてにげました。

はじめて いった ことばは、「まんま」でした。ごはんの ときに、スプーンを見て、「まんま」と いったのです。おかあさんは、「いま、まんまって いった？」と、おとうさんに 3かいも ききました。

1さいの たんじょう日には、おばあちゃんが 小さな ケーキを やいて くれました。ろうそくは 1本です。はるは、ろうそくを ふく かわりに、ケーキに 手を入れました。クリームで まっ白になった 手を見て、はるが 先に わらいました。それを見て、みんなも いっしょに わらいました。

その すこし 後の ことです。はるは、おじいちゃんの手につかまって 立っていました。おじいちゃんが、そっと 手をはなしました。はるは、1ぽ、2ぽ、3ぽ。と ことこ あるいて、おかあさんの ひざに ぽすんと たおれこみました。

「あるいた！」

みんなが はくしゅを しました。はるは、なにが おきたのかわからない かおで、きょとんとして いました。それから、みんなが わらっ

ているので、はるも わらいました。

1さいの はるは、おふろが大すきでした。おとうさんと いっしょに入ると、おゆを手で ばしゃばしゃ たたいて、おとうさんの かおに かけます。おとうさんが「うわっ」というと、はるは もっと たたきました。おふろから 出る ころには、おとうさんの ほうが びしょびしょ でした。

はるの 1さいの なつには、はじめて 川あそびに いきました。わかば川の あさい ところで、おとうさんが はるの 足を そっと 水につけ ました。はるは、はじめは びっくりした かおを して いましたが、すぐに 足で 水を けて、わらいました。

あるけるようになった はるは、うちの中を たんけんしました。いちばん すきだったのは、だいどころの ひきだしです。あけては、おなべの ふたを 出して、ならべました。おかあさんは、ひきだしに ストッパーを つけました。

第3章 2～3さい

ながぐつの ぼうけん

2さいになると、はるはなんでも「じぶんで！」というようになりました。くつも じぶんではきます。ときどき、右と 左がはんたいになっていました。それでも、はるはとくいな かおであるきました。

2さいの はるは、おてつだいも すきでした。おかあさんがせんたくものをほしていると、くつしたを1まいずつわたしてくれます。ときどき、わたさずに じぶんの あたまにのせて、「ぼうし」といってわらいました。

こうえんでは、すべりだいを なんかいも すべりました。上るときは ゆっくり、すべる ときは足をぴんと のばします。下でまっている おとうさんに、「見て見て！」と手をふりました。

3さいの たんじょう日に、おじいちゃんとおばあちゃんから、きいろいながぐつをもらいました。おそろいの、きいろい 雨ガッパもいっしょです。

はるは、その日から 雨がふるのを まちました。まどの そとを見ては、「きょうはふる？」と ききます。

やっと雨がふった日のことです。はるは、ながぐつをはいて、雨ガッパをきて、そとにとびだしました。こうえんの 入り口に、大き

な水たまりがありました。

「じゃぶーん！」

はるは、水たまりのまん中に りょう足で とびこみました。水がはねて、おかあさんのズボンまでぬれました。おかあさんは「あーあ」といいながら、わらっていました。

はるの ぼうけんは、まだ つづきます。水たまりから 水たまりへ、ひとつずつ じゅんばんにとびこんでいきました。とちゅうで、いけがきの はっぱにかたつむりを見つけました。はるはしゃがんで、ずっと見ていました。かたつむりは、つのを出したり ひっこめたりします。そのたびに、はるは「あ、出た」「あ、ひっこんだ」と小さなこえでいいました。

うちにかえると、ながぐつの中まで水が入っていました。はるのくつしたはびしょびしょです。おかあさんがタオルで足をふいてくれました。はるは、「また 雨、ふる？」と ききました。

つぎの日、ながぐつは げんかんで、さかさまにしてほしてありました。はるは、ながぐつの中を のぞいて、「まだぬれてる」といいました。そして、ながぐつに「がんばったね」といいました。おかあさんとおとうさんは、かおを見あわせてわらいました。

それから、雨の日の さんぽは、はるの たのしみになりました。雨の日にしか見つからないものがある、とはるはいいます。かたつむり、みみず、はっぱの上の水の つぶ。はるの ポケットは、いつも 小さな石や はっぱで いっぱいでした。

3さいのはるの くちぐせは、「なんで？」でした。そらは なんで 青いの。雨は なんで ふるの。かたつむりは なんで おうちを せおって

いるの。おかあさんも おとうさんも、こたえられない ことがたくさんありました。そんなときは、いっしょに ずかんを ひらいて しらべました。

このころ、はるは、大きな おとが すこし にがてでした。なつまつりのはなびの日、ドーンという おとにびっくりして、おとうさんのむねにかおをうずめました。おとうさんは、はるのみみを手でそつとふさいで、すこしはなれたところから いっしょに見ました。とおくから見る はなびも、きれいでした。

3さいのはるは、えほんをよんでもらうのもすきでした。ねるまえに、おかあさんがえほんを1さつよみます。よみおわると、はるは「もう1かい」といいます。もう1かいよむと、また「もう1かい」。おなじえほんを5かいよんだよるもありました。さいごには、はるがおかあさんよりさきに、つぎのページのことばをいえるようになります。

3さいのおわりには、ながぐつがきつくなりました。はるの足が大きくなったのです。きいろいながぐつは、いまでもげんかんのくつばこのおくにしまっています。

第4章 4～5さい

えんと ミニトマト

4さいになったばかりの、さくらのころ。はるは、えんにかよいはじめました。

はじめの日、はるはおかあさんの手をなかなかはなしませんでした。先生が「いっしょにあそぼう」といっても、げんかんでかたまっていました。

その日、おかあさんがむかえにいくと、はるはすなばで大きなあなをほっていました。かえりみち、はるは「あしたもいく」といいました。

えんにかよいはじめてしばらくは、あさ、えんの入り口でなみだが出る日もありました。先生がはるをだっこして、「おかあさん、いってらっしゃい」と手をふってくれました。おかあさんがかどをまがるころには、はるはもうないていなかったそうです。

えんのかえりみちには、はるのはなしをきくじかんがありました。「きょうはなにをした？」ときくと、はるは「ひみつ」といいます。でも、おふろに入ると、すなばのこと、おひるのこと、うたのことを、ぜんぶはなしてくれました。

えんでは、まい日いろいろなことをしました。うたをうたったり、えをかいたり、そとではしったりしました。はるがいちばんす

きだったのは、すなばと、ずかんの ある コーナーでした。

4さいの ふゆには、えんのはっぴょうかいがありました。はるのやくは、たぬきでした。おかあさんがつくった しっぽをつけて、ぶたいのはしで「ぽんぽこ」と 小さな こえで いいました。こえは 小さかったけれど、しっぽを ふる ときは、とても たのしそうでした。かえりみち、はるは しっぽをつけた まま あるいて、「たぬき だから」と いいました。

5さいのはじめ、えんでひとり ひとつずつ、プランターに ミニトマトの なえを うえました。はるは、水を やる かかりを、じぶんから やりたいと いいました。

まい日、じょうろで水を やりました。花が さいた 日は、うちにかえって すぐに「きいろい花が さいた！」と おしえて くれました。花のあとに、小さな みどりの みがつきました。

みどりの みは、なかなか 赤く なりません。はるは、まい日 のぞいては、「まだ みどり」と いいました。おかあさんが「まっていようね」と いうと、はるは「まってる」と こたえました。

5さいの なつ、なつやすみの すこしまえの 日です。おかあさんがむかえに いくと、はるが 入り口で まっていました。

「あかくなつた！」

はるの 手の ひらに、赤い ミニトマトが ひとつ のっていました。はるは、それを りょう手で そつと もって、おかあさんに見せました。つぶさないように、そつと そつと。

その ミニトマトは、うちで おとうさんと はんぶんこに して たべました。はるは「あまい」と いいました。おとうさんも「あまい」と

いいました。ほんとうは、すこしすっぱかったそうです。

そのなつ、はるは、えんのミニトマトのえをかきました。赤いクレヨンで大きなまるをかいて、まわりにみどりのはっぱをかきました。そのえは、いまもだいどころのれいぞうこにはってあります。

なつやすみには、おとうさんと一緒に、ベランダでミニトマトをそだてました。こんどは、はるがおとうさんに水のやりかたをおしえました。「ねもとに、そっとね」。おとうさんは、「はい、先生」とこたえました。

えんで、はるはともだちともよくあそびました。ブロックで大きなとうをつくったり、おにごっこをしたりしました。ときどきけんかもしました。でも、つぎの日にはまたいっしょにあそんでいました。

5さいのあきのうんどうかいでは、かけっこに出ました。はるは、はしりながら、おうえんしているおじいちゃんを見つけて、手をふりました。そして、さいごまでにこにこしてはしりました。おじいちゃんは、「いちばんいいかおではしっていた」といいました。

いま、はるは、えんでいちばん大きいクラスです。小さい子がないていると、そばにいて、すなばのスコップをかけてあげます。はじめの日に、げんかんでかたまっていたはるが、です。

第5章 すきなもの

きょうりゅうと こうさく

はるの いちばん すきなものは、きょうりゅうです。

はじめて きょうりゅうに出あったのは、4さいの たんじょう日でした。おじいちゃんが、きょうりゅうの ずかんを くれたのです。はるはその 日の よる、ずかんを だいて ねました。

それからの はるは、きょうりゅうの 名まえを どんどん おぼえました。ティラノサウルス、トリケラトプス、ステゴサウルス。ながい 名まえも、すらすら いえます。おとうさんは ときどき まちがえて、はるになおされます。「おとうさん、それは アンキロサウルスだよ」。

はるが きょうりゅうの はなしをする とき、目が きらきら します。ごはんの ときも、おふろの ときも、はなしは とまりません。

はるは、きょうりゅうの まねも じょうずです。ティラノサウルスの ときは、りょう手を むねの まえで 小さく まげて、「ガオー」と いいます。トリケラトプスの ときは、ゆびを 3本 あたまに 立てて、おとうさんに むかって とっしんします。おとうさんは、まいかい たおされる やくです。

おじいちゃんといっしょに、はくぶつかんへ きょうりゅうの ほねを見に いった こともあります。はるは、大きな ほねの 下で、口を

あけたまま見上げていました。「かえりたくない」といって、なかなかうごきませんでした。

きょうりゅうのつぎにすきなのは、こうさくです。

うちには、だんボールのはこがたくさんあります。はるが「すてないで」というからです。はるは、はさみでだんボールをきって、テープでくっつけて、いろいろなものをつくります。

いちばんの大さくは、だんボールのきょうりゅうです。みどりのいろがみをはって、せなかにはオレンジのとげをつけました。ちゃんと4本の足で立ちます。名まえは「ダンボールサウルス」です。

ダンボールサウルスをつくるのに、3日かかりました。とちゅうで、足がなんどもとれました。はるは、テープを2まいにして、もう1どつけました。

ダンボールサウルスは、いま、はるのへやのたなの上にいます。はるは、ねるまえに「おやすみ」といいます。ときどき、ダンボールサウルスになかまがふえます。いまは、小さなトリケラトプスと、たまごが2こあります。

はるのとくいなことは、はさみでまっすぐきることです。おばあちゃんが、「はるははさみの名人だね」といいました。それから、はるは、おばあちゃんのうちにいくとき、いつもじぶんのはさみをもっていきます。

すきなたべものは、カレーライスとたまごやきです。カレーは、おとうさんがつくるあまいカレーがいちばんです。

にがてなたべものは、ピーマンです。おとうさんのカレーに、小さくきって入っているときは、たべます。

すきな本は、きょうりゅうの ずかんです。すきな うたは、きょうりゅうが 出て くる うたです。おふろで 大きな こえで うたいます。

すきな ばしょは、わかば川の かわらです。川の そばで、まるい 石を さがします。いちばん まるい 石は、まどべに ならべて あります。いま、7こ あります。

すきな あそびは、すなばで 大きな 山をつくる ことです。山の下に トンネルを ほって、りょうがわから 手を入れます。まん中で 手と手が さわると、はるは「つながった！」と 大きな こえで いいます。

よくいう ことばは、「見て見て！」です。なにかをつくったとき、なにかを見つけたとき、はるは かならず そう いって、みんなを よびます。

さいきん、はるは おばあちゃんに おりがみを ならっています。はじめに おぼえたのは、つるではなく、きょうりゅうの かおです。おばあちゃんも おった ことが なかったので、ふたりで ずかんを見ながら、はなしあって つくりました。できあがった かおは、ちょっと ねこに にて いました。はるは、「これは、ねこサウルス」と いって、ダンボールサウルスの となりに ならべました。

はるの すきな ものは、まだまだ ふえそうです。

第6章 小学校へ

入学のしたく

6さいのたんじょう日に、おじいちゃんがきょうりゅうのふでばこをくれました。ふたをあけると、ティラノサウルスのえがあります。はるは、えんぴつを1本ずつならべて、ふたをしめたりあけたりしました。

6さいのなつ、はるはおばあちゃんとランドセルをえらびにいきました。

でかけるまえ、はるは、どのいろにするか、ずっとかんがえていました。「きょうりゅうのいろがいい」といいます。おばあちゃんが「きょうりゅうって、なにいろ？」ときくと、はるはしばらくかんがえて、「わからない。ほねしかないから」とこたえました。おばあちゃんは、大わらいしました。

おみせには、いろいろないろのランドセルがならんでいました。赤、青、くろ、みどり、ちゃいろ。はるは、ひとつずつせおって、かがみのまえに立ちました。

はるがえらんだのは、こんいろのランドセルです。せおって、くるとまわって、かがみを見ました。

「にあってるよ」

おばあちゃんが にっこり わらいました。はるも、てれくさそうに
わらいました。

ランドセルが うちに とどいた 日、はるは、ランドセルを せおった
まま ごはんを たべようと しました。おかあさんに「ごはんの ときは
おろそうね」と いわれて、しぶしぶ おろしました。そのかわり、ね
るときは、まくの よこに おいて ねました。

それから、はるは、まい日 ランドセルに なにかを 入れて みます。
ずかん、ふでばこ、ダンボールサウルの たまご。おかあさんが「た
まごはいらないよ」と いうと、はるは「おまもり」と いって、そっ
と 出しました。

いま、はるは、じぶんの 名まえを かくれんしゅうを しています。
「さ」と「き」は、すこし むずかしいです。ゆっくり かけば、ちゃ
んと かけます。

おとうさんとは、ふたりで「小学校ごっこ」を します。おとうさん
が 先生の やくです。おとうさんが「はるくん」と よぶと、はるは
「はい!」と 手を 上げます。

あきになって、えんのかえりに、小学校の まえを とおる ことが
ふえました。こうていでは、大きい 子たちが はしっています。はる
は、立ちどまって、じっと 見えています。「あの 子たちも、ランドセ
ル、もってる?」と ききます。おかあさんが「みんな もってるよ」と
こたえと、はるは 小さく うなずきました。

おじいちゃんは、ランドセルを せおった はるの シャしんを、また
たくさん とりました。こんどは、どれも すこしずつ ちがう シャしん
でした。はるが、まいかい ちがう ポーズを したからです。

はるは、小学校にいったら、やってみたいことを3つおしえてくれました。1つめは、としょしつできょうりゅうの本をかりること。2つめは、こうていのいちばんはしまではしること。3つめは、きゅうしょくのカレーをたべること。おとうさんのカレーと、どちらがあまいかくらべてみたいそうです。

らいねんの4月、はるは小学1年生になります。

はるは「小学校に、きょうりゅうの本、ある？」とききました。おかあさんは「きっとあるよ」とこたえました。

小学校のことをかんがえて、ねるまえにすこししんばいそうなかおをする日もあります。そんなよるは、おかあさんが、はるのすきなきょうりゅうのえほんをよみます。はるは、とちゅうでねむってしまいます。

あたらしいことは、どきどきします。でも、はるには、すきなものがたくさんあります。すきなものは、きっとはるをたすけてくれます。

第7章 みらいの きみへ

4つの てがみ

さいごに、てがみをとどけます。おかあさん、おとうさん、おばあちゃん、おじいちゃんから、大きくなった はるへの てがみです。

いまの はるが よんでも、大きくなった はるが よんでも いいようにかきました。だれかと いっしょに よんでも いいよ。小学生になって、中学生になって、大人になって。そのたびによむと、きっとちがう ところが ころに のこります。

はるへ

はるが うまれた日は、あめがあがって、そらがとても きれいでした。

きょうりゅうの はなしをする はるの かおが、わたしは だいすきです。あしたも すきなことを たくさん みつけてね。

小学校では、あたらしい ことが たくさん あると おもいます。うまく いかない 日があっても、だいじょうぶ。かえって きたら、おやつを たべながら、はなしを きかせてね。

はるが 大人になって、この てがみを よむ とき、おかあさんは、いまより すこし 白い かみのおかあさんです。そのときも、きょうりゅう

うのはなしをきかせてね。

おかあさんは、はるのおかあさんになれて、ほんとうにうれしいです。

はるがうまれた日のそらのいろを、おかあさんはいまもおぼえています。こんど雨があがったら、いっしょにそらを見ようね。

おかあさんより

はるへ

はじめてはるをだっこした日、はるの小さな手が、おとうさんのゆびをぎゅっとにぎりました。あの力のつよさを、おとうさんはいまもおぼえています。

はるが1さいであるいたとき、3さいで水たまりにとびこんだとき、5さいでミニトマトを見せてくれたとき。おとうさんはいつも、すぐそばで見っていました。

はるの6年のあいだに、おとうさんはたくさんのことはるにもしえてもらいました。きょうりゅうの名まえ、ミニトマトの水のやりかた、だんボールのきりかた。おとうさんは、はるの先生の1人です。

これからは、おとうさんの見ていないところで、はるがいろいろなことをする日がふえます。それでいいんです。はるがどこでなにをしても、おとうさんははるのみかたです。

それから、カレーのピーマンは、これからも小さくきっておきます。

アンキロサウルスの名まえは、もう まちがえないように します。
おとうさんより

はるへ

ランドセルを せおって、くるっと まわった はるは、とても 大きく
見えました。おばあちゃんは うれしくて、むねが いっぱいになりま
した。

はるが うまれて から、おばあちゃんは 小さな ノートに、はるの こ
とを かいて きました。ノートは、いま 4さつめです。この てがみ
も、その ノートの いちばん さいごの ページに かきうつして おきま
す。

はるの はさみは、ほんとうに まっすぐです。おばあちゃんの うち
の いろがみは、いつでも つかって いいよ。また いっしょに なにか
つくろうね。

はるが 大きく なって、おばあちゃんより せが たかくなったら、こ
んどは はるが おばあちゃんに、なにか つくって ください。たのしみ
に まっています。

おばあちゃんは、はるが はじめて 「にあってるよ」と いわれて、
てれて わらった かおを、ずっと わすれません。

おばあちゃんより

はるへ

はるが うまれた 日、おじいちゃん は しゃしん を たくさん とりすぎ
て、おばあちゃん に わらわれました。でも、どれも だいじな しゃし
んです。

4さいの たんじょう 日 に あげた きょうりゅう の ずかん は、もう ぼ
ろぼろ です。それだけ たくさん ひらいて くれた のが、おじいちゃ
ん は うれしい です。

はくぶつかんで、大きな ほね の 下 から うごかなかった はる の すが
たを、おじいちゃん は よく おもいだします。はる が 大きくな っ て、
もし きょうりゅう の ほね を ほる 人 にな っ たら、おじいちゃん を い
ちばん に つれて いっ て くだ さい。

わかば川 の まるい 石 さがし、こんども いっしょ に いこう。はる が
見 つけた 石 は、どれも いい 石 です。

まどべ の 7こ の 石 が、10こ、20こ と ふえて いく のを、おじいちゃ
ん は たのしみ に し て い ます。

大きくな っ た はる へ。すきな もの を、ずっと だいじ に し て くだ
さい。

おじいちゃん より

奥付

題名: はじめの6年、あしたへの手紙

主人公: 佐々木陽

贈り主: おかあさん・おとうさん・おばあちゃん・おじいちゃん

版: 見本 第2稿 (2026年10月4日。数字を算用数字にそろえた)

制作: YNファクトリー / YN出版

この本は、自分史サービスの見本として作った架空サンプルです。登場する人物、地名、出来事はすべて架空で、実在の人物・団体・場所とは関係ありません。